

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503882		
法人名	株式会社 ケアプロダクツ		
事業所名	グループホームあじさい藤野		
所在地	札幌市南区藤野3条4丁目15-60		
自己評価作成日	平成23年9月29日	評価結果市町村受理日	平成23年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念である『幸福』；幸せの輪を広げ楽しく有意義な時間を共に永く過ごせるよう支援するを念頭に入居者へのサービス提供を心がけています。また、認知症を正しく理解し、残存機能を最大限生かせるよう環境作りに努め、より良いサービス提供につながるよう社会的責任を認識し、介護サービスに携わる者として研鑽かつ健全な運営に努めます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503882&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年10月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道から少し離れた緑豊かな場所に建つグループホームです。ホームには畑があり、育てた野菜を料理に使うことが利用者の楽しみとなっています。また、屋外で犬を飼っており、利用者の心を和ませています。町内会行事やホームの行事、交流会などを通して、地域住民の方々との深い繋がりが構築されています。また、利用者が部屋に閉じこもらず楽しく生活できるよう、毎月、外出レクリエーションなどのイベントが計画されています。更に、毎月テーマを決めて計画的に内部研修を行い、職員のスキルアップにも力を入れています。職員は職歴も年代も様々ですが、コミュニケーションが良く、出産をひかえた職員や子どものいる職員も助け合い、切磋琢磨しながら業務に励んでいます。職員同士の思いやりが、利用者に対する優しさにも繋がり、職員は理念である「利用者の尊厳を大切にするケア、地域に根づいたホーム」を念頭に、明るく穏やかに利用者へ接しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	連携、協力し実践につなげていけるよう理念の再確認の為、申し送り時に音読し、地域密着型の意識を高め努力できるような努めている。	地域密着型を意識したホーム独自の理念を作り上げ、玄関、事務所に掲示しています。管理者及び職員は常時理念を携帯し、毎朝申し送りで理念を音読するなどして、理念の共有を図り、理念に基づいたケアの実践に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、双方の行事への参加や交流会等を実施、介護相談の対応、子供110番の家でもあり、地域に根付いた事業所でありたいと努めている。	町内会行事に参加する一方、ホームの行事にも地域住民の方々が参加し、踊り、音楽、演劇などの出し物を提供して頂いています。またホーム内にて町内会との交流会を実施するなど、地域に根ざし、活発に交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の福祉推進委員会からの相談や入居相談などがあつた際には、当事業所で対処が難しくとも、情報の提供や他の専門機関の紹介を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の入居者・職員情報・事故・近況報告などを行い、状況に応じ別途資料添付し運営推進会議を開催している。多様な意見も頂くことが多く、内容により職員会議で取り上げサービスに反映できるよう努めている。	家族、職員、町内会役員、包括支援センター職員などをメンバーとし、活発に質問や意見が出され、運営に活かしています。外部評価についても議題となっています。また家族や町内会役員には、毎回、個別に運営推進会議の案内状を送付しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各区役所とは連携することも多く、サービスに係ること以外にも相談や協力していただける環境にある。	区の保護課や介護保険課を中心として、緊密に連絡を取り合い、協働してサービスの質の向上に取り組んでいます。また市のグループホーム管理者会議や、ホームの行事などを通し、同業者との情報交換や交流も図っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間、ユニットの内戸の施錠は防犯兼ねて行っているが、それ以外では内部研修などにも「してはいけない行為」取り上げ、職員それぞれが認識、注意しサービス提供に取り組んでいる。	サービス向上委員会を設立し、内部研修で身体拘束について正しく理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいます。玄関にはセンサーを設置し、利用者の外出の把握に努めています。職員は、利用者が外出意向を示した時は制止せず、同行するようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で取り上げ、身体的・精神的虐待を見逃さないようにすると共に、言葉の虐待に注意を払い防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で学ぶ機会を設け、それぞれの役割についての話し合いも持ったが、現在成年後見制度を活用されている入居者の事例も含め、まだまだ課題は多いと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項内は全て説明し、不安なことや問題は解決へ向けての話し合いを行うことと、その後には生じる問題対してもなるべく早急に対処できる様、話し合う機会を作るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置に加え、家族対応ファイルに日常のご家族とのやりとりなどを記録に残すようにしている。入居者、ご家族共に意見や要望などの職員間での共有も可能にし、可能な限り反映できるよう努めている。	前回調査の結果を受けて家族対応ファイルを作成し、利用者や家族の意見、要望を全職員が共有するとともに、可能な限り、迅速に対応するよう努めています。また、毎月発行されるホーム便りには、たくさんの写真が掲載され、利用者の個別のコメント欄もあり、利用者の生活の様子が良く伝わるよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やユニット・合同・ケア会議等で介護職員と管理者間での意見交換は行っており、円滑な業務遂行に努め、管理者はその内容を運営へ報告している。	職員は申し送り時や会議時に限らず、常に管理者に気軽に意見や提言を伝えることが出来ます。備品に関することや、利用者への声かけの仕方など、細かな部分でも職員からの積極的な意見を運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の給与査定で職員評価を行い給与に反映されているが、給与水準は職員個々に思いは違うようでもあり、その為にも努力や実績の評価を継続している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加要項などは事務所内に掲示し、希望があれば資格取得や研修参加に係る勤務調整をし、その他内部研修やケアプランのサービス提供の内容に沿い、介護力の向上を目指し、職員により工夫されたケアの指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内（2ユニット）では合同行事や委員会、研修などでの交流や協力度体制はとれており、外部研修等で同業者との交流を機会に互いの事業所行事に参加するなどの活動が可能になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員それぞれが入居者に体調確認などをきっかけに会話の機会を多くし、生活のリズムを考慮しながら、安心して仲間に入れるよう中間的役割に徹するよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活歴や生活環境等を支障ない程度に情報提供していただき、可能な限りご家族にもご本人にも不安が軽減できる様、面会の際等には近況報告し会話を多くするよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	慣れない環境でいかに早く安心した生活が送れるのかを重要視し、必要な対応（受診、外出等）を出来る限り入居者やご家族が納得できる支援が出来るよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす環境作りとして、可能な限りのことは協力して行えるよう、掃除・料理・洗濯物たみなど入居者の得意分野を見出し、信頼できる人間関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	絆を大切に、ご家族には出来る限り多くの面会で、職員だけでは補いきれない精神的な安定への協力をお願いし、面会の際には近況報告など、職員との会話の機会も作るよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係継続は殆どの入居者には難しい。新興宗教やリハビリ通院、馴染みの美容室、墓参り等での外出などはご家族と共に協力的に援助している。	家族対応で、馴染みの理美容院、かかりつけの病院、墓参り等に出かけています。また家族や友人、知人との電話や手紙のやりとりの支援を行い、馴染みの人との関係が途切れないよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション、アクティビティなどを通じて、良い関係づくりが出来るよう交流できる環境作りし、孤立する状況を作らないよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が主にご家族からの相談を受けたり、ご本人入院の場合は様子を伺いに行く等のフォローをしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人情報や日頃の生活などを考慮し、職員間で話し合い、場合によりケアプランに反映させている。	日々の会話や行動、生活歴などの情報を職員間で共有し、可能な限り、利用者の生活リズムや希望に沿った過ごし方ができるよう支援しています。また、利用者が「自ら選ぶ」ことを大切にしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にご家族にも協力していただき、生活歴や趣味等を教えていただくようにしている。収集した情報は記録に残すようにし把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り時にも入居者の詳細は報告され、記録しているが、身体能力の維持や向上については職金管での話し合いをもとにケアプランに反映している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を中心にケアプランの検討会議を定期的に行い、評価や新たな解決策や他に改善できる点はないか等話し合い、ケアプランに反映させている。その際には可能な限り本人にも説明し、同意を得られるように努めている。	居室担当者がアセスメントを行い、介護計画の原案を作成後、全職員によるケア会議において、情報や意見、アイデアを出し合いながら、最終的な介護計画を作成しています。介護計画は3ヵ月に1度定期的に見直すとともに、状況に変化があれば随時見直しを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報共有と、経過表やケアチェックを重要とし、ケアプランサービス提供と評価を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるよう、受診希望や買い物外出、その他、季節に合わせた外出行事など、日々の体調や状態の変化に合わせて柔軟に対応できるよう取り組みをしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望に応じ外出の機会を設けたり、入居者への情報を提供するなどし、多様な環境への参加を促してはいる。近隣の公園や畑仕事、買い物外出など可能な限り自身の力で楽しめる環境作りに努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や受診の対応を可能な限り行っており、往診の主治医との連携はうまく行えてるが、病院により事業所で可能な対応が上手く噛み合わないこともあり、困惑することがある。	入居前からのかかりつけ医への受診は、原則として家族対応としていますが、状況に応じて職員が柔軟に支援しています。協力医療機関による定期的な往診、歯科診療が行われている他、緊急時も法人の看護師が、24時間体制で対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる点は看護師が24時間体制で対応可能なので、直ぐに相談できる環境もあり支持も仰げ、場合によっては往診先も受診対応の協力をしてくれるので、入居者や職員の不安軽減にはつながっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	双方で情報を共有し、連携が可能な病院は、安心して相談や情報交換を行うことが出来ているが、相談員などがおられず、医療機関と介護施設の違いを理解してもらえず苦難に直面することもある。その為、看護師や他機関等、認知症でも受け入れ可能な医療機関などの情報収集を重要としている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化や終末期における指針」は会社としてあるが、新規入居の際など、ご家族に説明するも、本人の現状から『まだ早い』という感覚があるのも事実。内部研修では取り入れ、他人ごとではなく、いづれ向き合うことも必ずあることとして認識している。	指針を作成し、入居時に重度化や終末期を迎えた場合の対応について、家族に説明しています。状況に応じて家族、医療関係者、職員間で連携し、支援を行う方針です。また内部研修でターミナルケアについて取り上げ、体制作りを進めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で取り上げてはいるが、実践として事故発生時に可能かという心配もあり、状況に応じ看護師からも指導してもらっている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を主として職員からの不安な声も多い為、今年度は2カ月に1度、避難訓練を開催している。町内会との合同訓練も1月に予定し実現を目指している。	2カ月に1度、夜間想定を主とした避難訓練を実施し、実際に利用者も避難しています。また食料、水等の備蓄も行っています。11月に町内会と合同の避難訓練を行う予定ですが、地域住民の方々との更なる協力体制を目指しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの言葉遣いに注意し、入居者を尊重し、誇りを傷つけないよう言葉の意図を探り、個々を大切にしようと職員それぞれが心掛けている。	言葉遣いやトイレ誘導時の声のかけ方など、職員同士で注意し合いながら、利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応を心がけています。職員の新規採用時にも接遇に関する説明を行っています。	居室に置いてあるオムツやポータブルトイレについては、居間や廊下から見えないよう、布などをかけたり、場所を移動するなどの工夫を期待します。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、出来る限りの支援が出来るよう心掛け、声掛け、働きかけ、対応が出来るよう努力している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的に本人の体調やペースに合わせて、希望、要望に応えられるように努めているが、集団生活の考慮や病状の問題などで沿えないこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意見を取り入れて更衣したり、季節や行事に合わせてオシャレをするなどの支援につとめている。			

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や後片付けは勿論、味や出来の評価をしていただいたり、食事に興味を持っていただける声掛けや、何が食べたいかなども参考にしている。	利用者の希望を取り入れ、栄養バランスにも配慮した食事を提供しています。また利用者も食器ふき、盛り付け、配膳、下膳など、力量に応じて役割を分担しています。職員は利用者の様子を細かく気遣いながら、一緒に楽しく食事しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記入し、食事水分量には常に注意を払い、間食の配慮も行っている。入居者の機能に応じた食事携帯で提供し、なるべく美味しく食せるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	体調や精神状態を考慮し、入居者自身の力で行っていただき、見守りや介助で補っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の声掛け、誘導で自立に近づけるよう配慮している。また、排泄チェック表に記入し、状況やパターンの見極めに役立っている。	排泄チェック表を利用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミング良くトイレ誘導することにより、オムツを使用している利用者も、日中はできるだけ布の下着で過ごせるよう、排泄の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前中のヨーグルトの提供と、薬に頼らないようにと、体操への参加にお誘いする等の努力をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日の固定はあるが、状況により対応可能である。入浴に拒否のある方には気分などを考慮し、日に係らずいろいろな声掛けや誘導を行う工夫をし、職員間で協力している。	週2回を目途として、午後中心に入浴していますが、希望者は毎日可能となっています。入浴を拒む利用者には、声かけの工夫や、入浴剤の利用、歌を唄うなど、楽しく入浴できるよう努めています。入浴の順番の希望にも柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のペースに合わせた生活を基本とし、安眠につながるよう、日中帯の起床時間を長くするための支援や、入居者個々の夜間行動の把握に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者それぞれの持病を把握するとともに、薬剤情報を確認し効能や副作用の理解に努め、症状の変化への配慮や誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々に合わせた支援が行えるよう、麻雀や散歩、買い物外出や嗜好品の用意などに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	対応可能なように職員調整やご家族への連絡を行っているが、双方の都合で不可能なこともある。可能な限りで、地域交流の場などへの参加はご家族や職員で対応し外出している。	散歩や買い物などの日常的な外出は、利用者の希望に応じて毎日のように出かけています。また花見、紅葉狩り、動物園、雪まつりへの外出などは、年間計画を立て、月に一度は利用者全員でレクリエーションを楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者やご家族の希望に合わせお任せし、希望によりお小遣い帳を作成し支援に努めている。買い物外出希望には早急に対応できるよう調整を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の都合が優先されるが、時間を考慮し電話を掛けられるよう支援している。また、手紙などはなるべく本人直筆の努力をさせていただき、希望であれば宛先などの代筆を行う支援を行っている。入居者の中には携帯電話を保持し、常にご家族に連絡可能な方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内各箇所の清掃手順書に基づき清掃し、汚れやすい場所はその都度清潔保持に努め、共同空間は入居者と共に季節に合わせた装飾をし、時間や状況により音楽の取り入れ等、過ごしやすい環境作りに努めている。	木のぬくもりを感じさせるホーム内は、日当たりも良く、職員と利用者が毎日共に清掃し、清潔に保たれています。台所、浴室、トイレなども適切な広さです。また、エアコンや空気清浄機が備えられ、温度等も快適な状態に保たれています。居間や廊下には、手作りの暦や利用者の似顔絵、行事の写真、利用者の作品、季節の装飾などがあり、家庭的な雰囲気となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間内では、レイアウトの変更や座席に考慮し入居者個々が居心地良い環境作りに配慮している。物の配置などもなるべく変更しないよう心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は入居の際にご家族や入居者に自由な部屋づくりの提案をしているため、個性豊かな居室となっている。掃除や整頓の際にも入居者と話し合いながら行っており、アクティビティの作品や写真、賞状を張る等、思い思いの居室となっている。	居室にはロッカーが備え付けられています。利用者は、それぞれ使い慣れた家具や仏壇、生活用品、お気に入りの物などを自由に持ち込み、賞状や写真、自分の作品などを飾って、個性のある、居心地良く過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活全般において危険が伴わない限りで対応し、入居者個々の身体機能を維持や向上を目指し、ケアプランに反映させるとともに、プラン外でも可能なこと「できること」「わかること」に支援できる様努力している。		